



平成30年 5月 16日

ご関係の皆様方へ

大阪市立東三国小学校
校長 原 雅 史

東三国小「主体的・対話的で深い学びのある授業」研究

公開研究授業のご案内

若葉の候、貴職におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。平素は本校の教育活動にご理解・ご指導賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、本校では、「主体的・対話的で深い学びのある授業」づくりを本年度の教育研究テーマに据えて、日々研鑽に取り組んでいるところです。まだまだ研究の道半ばではございますが、次のとおり公開授業にて発表をし、皆様から忌憚ないご意見をいただき、一層研究を深めていきたいと考えております。校務何かとお忙しい時候とは存じますが、ぜひ、ご参加いただきますようご案内いたします。(詳細添付資料参照)

記

1 開催日時 平成30年6月4日(月) 14時45分～17時

2 会場 大阪市立東三国小学校
〒532-0002
大阪市淀川区東三国6-3-24 電話 6391-0366
・大阪メトロ御堂筋線「東三国駅」下車 西北へ500m

3 時程

14:15 14:45 15:30 15:45 16:15 17:00

受付	公開授業	休憩	研究協議	講話
----	------	----	------	----

4 内容

○公開授業 ゲストティーチャー
(授業者) 東三国小学校 校長 原 雅史
5年2組 国語 『あめ玉』 新美南吉 作
～協同学習における文学の授業展開の方法とは～

○講話 大阪まなびの会 代表 丹松 美代志

5 申込方法 ① スキップメール 大阪市立東三国小学校 教頭 千葉 法幸 まで
② FAX 後のページのFAX送信票でお申し込みください。

平成30年度 東三国小学校 グランドデザイン

校長 原 雅史

はじめに

平成32年度から本格実施される新学習指導要領に対して、どのような準備が必要なのでしょう。今回の大きな改革の柱の一つである「主体的・対話的で深い学びのある授業」については、特段に丁寧で綿密な準備が必要と考えられます。しかし大半の教員は、従来型の講義中心のスタイルでしか授業をした経験がなく、そもそもそのような形での授業を自分自身が受けたこともなければ、見たこともないのが現状です。それゆえ、文部科学省が打ち出している、上記の新しいスタイルの授業のイメージが非常に持ちにくく、それをどのように実践していけばいいのかは大きな課題となっています。

数年前より文部科学省などより様々な形で、この改革の理念や「主体的・対話的で深い学びのある授業」の具体的な実践例が提示されていますが、やはり実際に見てみると、なかなか自分が実践するには難しいと考えます。そこで、本校では、次のようなグラ

ンドデザインを掲げ目標などを明確にし、計画的・組織的に研究授業・研修を重ね、平成32年度の4月には全教員が「主体的・対話的で深い学びのある授業」ができるようにしたいと考えております。

教員の授業方法の変革のみならず、教員の指導理念の改革にもせまる、非常に難しい試みになるかと思われませんが、「トライ&エラー」を重ねていき、多くの方に観てもらいながら、目標に近づいていくしかないと考えます。そして校長がその先頭に立ち、この新しい授業スタイルで全員が行えるよう、全力で取り組む覚悟です。ただ校長一人では非常に小さな力ですので、本校の教職員が一丸となり、「チーム東三国」として、このグランドデザインの推進に取り組まなければ、実践は難しいと思われしますので、どうぞ皆様のお力あわせのほど、よろしくお願い申し上げます。

平成30年4月2日

(1) 30年度 学校教育目標

全ての子どもの学びを保障し、「生きる力」を育む教育の実践

「生きる力」＝「確かな学力」「豊かな人間性」「健やかな心身」の育成

(2) めざす学校像

1) 安全・安心の満たされた学校

- ① 「いじめ」「生活指導」事案の未然防止に重点を置く
- ② 防災、防犯の拠点となる「地域コミュニティー」の核をめざす

2) 一人も一人にしないで、全ての子どもが「楽しい」と感じる学校

- ① 子どもの人権を尊重する教育の実践
- ② 校内の全ての人々が「信頼関係」で結ばれている学校
- ③ 留意点：1.学校行事だけで作らない
2.学校の基本は「授業」であり、児童も教師も「授業」が楽しいと感じるものにする。

3) 「主体的・対話的で深い学び」のある授業で、学力向上を図る学校

- ① 「学び続ける子どもは崩れない」

- ② 卒業文集に「授業の思い出」が書かれるように
- ③ 児童も教師も お互いに学び合う学校（同僚性の構築）

（3）平成30年度 教育の重点目標

1）平成32年度からの新学習指導要領に向けて動き出す

- ① 「何のために学ぶのか」⇒「なにができるようになるのか」を考えた指導
- ② 1 知識及び技能、
2 思考力、判断力、表現力等、
3 学びに向かう力、人間性等の三つの柱で再整理。
- ③ 道徳、外国語科の実践推進

2）「学びの共同体」をめざす

- ① 「主体的・対話的で深い学び」のある授業をつくるために、「協同学習」などを通じて、学校を「学び」にあふれた「学びの共同体」にする。
- ② 「協同学習」＝小集団を活用した教育方法。集団内の互恵的な相互依存関係を基に、協働でも共同でもない、協同的に学習活動を行うこと。
- ③ 「学びの共同体」＝協同学習を軸に、学校（教員と児童）、保護者、地域が三位一体となって、「学び」の習得に最重点を置いた社会集団、理念のこと。協同学習を取り入れた学校がめざす最終ゴールのかたち。
- ④ 留意点 1 従来の授業方法も否定はしない。実践まで時間はかかる。
2 「学力の向上」は「目標」ではなく「結果」という視点
3 協同学習は「方法」ではなく「理念」
4 「話し合い」「教え合い」学習との混同

3） 集団育成の観点にたった指導 ～集団が集団で集団を育てる～

4） インクルーシブ教育の実践 ～共に生き、共に育つこども～

（4）公開授業の意義

上記（1）～（3）の実現には、教員の授業力の向上は不可欠である。ただ、授業力を向上させるといっても、簡単なものではなく、その方法は複雑で長期的なものが多い。そこで、本校では、それらの中から、「公開授業」を行うことで、短期的にかつ効果的な授業力の向上を図りたい。

1）なぜ、公開授業が、授業力の向上に効果的なのか

授業は、チームティーチングなどをのぞけば、本来教員一人でおこなうものであり、指導案の作成から、教材の研究、授業の流れの構想、発問そして評価に至るまで、全て一人で行う。それゆえ担当する教員の責任、使命は相当大きなものになり、場合によっては「独りよがり」なものにもなりがちである。これを防ぐには、授業を公開するしか方法がない。同僚や外部の者など、自分の授業を他者に見せることが、授業力の向上には最善と考える。

そして、その他者からの評価も授業者にとっては、大きな薬となるのであるが、何より公開授業に向けて、授業を練っていく過程が授業者にとっては非常に大きな経験値となる。

指導書や授業に関する書物をたくさん読むこと、授業名人の授業を実際にみることも、授業力を向上させる大きな方法ではあるが、授業は実践であり、実践を通して身につける力は何にも代えがたい。本校では、1回でも多くの授業実践を公開していくことで、一人でも多くの教員の授業力を向上させていきたい。

2）スーパーバイザーの招聘

授業力の向上には、前述のように同僚で切磋琢磨する校内授業研究の場も大切である。メリット

として数をたくさんこなせること挙げられる。毎週1回、授業ビデオを使って学年毎に授業検討会を行っている学校もある。

しかし、校内だけの授業検討会では、「打ち込み」が甘くなりがちなこと多い。そこで多数の授業を見て、他校の授業とも比較してコメントしてもらえるスーパーバイザーの招聘が重要となる。日程的なことや経済的なこともあるので、数多く招聘することは、難しいが、年間最低3回は公開授業を行いスーパーバイザーを招聘したい。また、スーパーバイザーの多くは、他都市や他府県の授業も多数観ているので、全国レベルでの情報を持ち、その中で本校の立ち位置、進むべき方向を指し示していただけると考える。

3) 「のびしろ」のある授業の公開

従来、公開授業というのは、全市を代表する授業者が、今後の大阪市の進むべき方向性を指し示すような授業を行う場で、多くの先生方がその授業を見学し、明日からの自分の授業に取り込み、進んできた。今後の大阪市の教育を牽引していくためにも、このような公開授業は引き続き重要であると考えられる。

一方「主体的・対話的で深い学びのある授業」では、授業を中心になって作っていくのは子どもであるため、授業がどのように進んでいくかを、完全に予測して指導案に落とし込むことはかなり難しい。仮に子どもの発言なども予測して指導案を作成して、万一その通りに授業がいかなかった場合、その授業はどのような評価となるのだろうか。指導案の予測が悪かったから、良い授業ではない、子どもが予想外の発言をしたため、良い授業ではないと簡単には評価できない。

そこで、この「主体的・対話的で深い学びのある授業」研究の場では、従来のように予め授業のすべてを予測した指導案の形式ではなく、おおよそのアウトラインを提示した「授業デザイン」に基づいて授業を展開させていくのが一般的である。予め完成された授業ではなく、子どもの「のびしろ」と捉える不特定要素を多数含む授業を公開することは、教師がどう教えたかよりも、子どもの学びの様子をじっくりと語り合える場になりやすいと考えている。また、「授業中、授業者は子どもを観ていない」と言われているが、授業者の見えていなかった子どもの学びの様子など、「教室の真実の姿」をより多くの方にみていただき、コメントをいただけましたら、授業者にとって授業を公開した一番大きな収穫となる。

4) 多くの人との交流の中で、一層深い授業ができる。

「自主的・対話的で深い学びのある授業」を展開するねらいのひとつに、「全ての子どもの学習権を保障する」というものがある。PISA調査などでも、日本の子どもが、いかに「学びから逃走」しているかが明らかになり、なぜそのような結果になっているか、諸外国との違いを探ると、授業方法そのものに、大きな違いがあることが明確になった。

つまり、諸外国では、すでに10年以上前から講義一斉方式の授業では、多くの子どもが学びからこぼれていることを明らかにしていた。これを解決するには小グループによる協同学習が最も効果的であることも明白にしてきた。一部の子どもによる、良い答えだけをつなぎ、良い結果、良い授業を求めるのではなく、全ての子どもが授業に参加する方法として、「自主的・対話的で深い学びのある授業」が考案されたのである。

従来、日本の多くの教室では全員が黒板の方を向いて座り、「わかる人?」「はい」という講義一斉方式で進められてきた。これを、グループにして「わからなかったら、お隣と相談してください。」とするだけで、全員参加の授業形態がつかれるのである。そして、子どもの「わからない」というつぶやきを軸に、学級の全員がその子の「困り感」を共有していくことで、授業を深めていくのである。

同じことが、教員の研究授業にあてはまらないだろうか。良い授業をみて、良い意見をつないで

「お疲れ様でした」とするのではなく、多少不完全ながらも、子どもが主体的・対話的につくっていく授業をみて、「どうしてあの子は、あのような発言になったのだろうか」「あの子の発言によって、クラス全員が深い学びに入ったよね」など子どもの学びを中心とした交流から学ぶことは多く、観察した教員の技量も深まると考える。「主体的・対話的で深い学びのある授業」に詳しくなくても構いません、一緒に公開授業をつくる中で、子どもの学びの様子、そこから学べることからなどを共有化し、共に成長していきませんか。

(5) 年間計画

月	日	曜	時間	項目	担当	内容
4	2	月	10～10:30	校内研修①	原	学びの共同体をめざすグランドデザインの説明
4	11	水	16:30～17	校内研修②	原	校内研修年間計画①
5	9	水	16:30～17	職員会議	原	校内研修年間計画②
5	14	月	16～17	校内研修③	原	ビデオ検討会（1年算数） ・「授業における失敗は宝物」 ・やわらかい空気とは
5	23	水	15～17	校内研修④	原	ビデオ検討会（6年算数） ・「あーわかった！」が聞こえる授業 ・課題の作り方 ・授業における子どもの見方
6	4	月	6限～	公開授業①	原	授業見学（5年国語）・協議会 ・「つなぐ」と「もどす」 ・スーパーバイザーによる講話
8	23	木	14～17	校内研修⑤		・事例研究発表「インクルーシブ教育」 柴島中学校 教諭 菅 裕香
8	24	金	14～17	校内研修⑥		・協同学習模擬授業 5年道徳（仮） 諏訪小学校 教諭 上田剛士 ・反転学習模擬授業 中1社会 住之江中学校 指導教諭 増田洋平
11				公開授業②	青木	
2				公開授業③	高橋	

■公開授業をするにあたって

このたび、5年生の国語の授業をさせていただくことになった、原です。私自身が、全国の「主体的・対話的で深い学びのある授業」を観て歩いた経験から、今の本校できうる最良の授業を実施しようと思います。できるだけ教師はしゃべらず、説明もせず、子どもの発言を引き出し、そしてつなぎ、そしてテキストに戻したり、グループに戻すという授業ができたかと考えています。子どもを主体にする授業とは、子どもを対話させるには、そして深い学びに結びつける方法などについて、皆様からのご意見、ご感想、疑問点などを交流させる「場」の提供になればと思い、授業をこの度公開させていただきますので、どうぞご参加くださいますよう、よろしく申し上げます。この授業を通して、子どもも、教師も大きくジャンプできますことを祈念して、私のご挨拶と結びます。

「教育とは、流水に文字を書くような儚い業である。だがそれを、

巖壁に刻むような真剣さで取り組まねばならぬ。」（森 信三）

F A X 送信票

F A X 番号 06-6391-1998

東三国小学校 公開授業&教志塾 参加申込書

送付先 大阪市立 東三国小学校
教頭 千葉 法幸
TEL 06-6391-0366
FAX 06-6391-1998

送付元	所属名(学校名)				
	ご担当者				
送付期日	30年 5 月 31 日				
件名	東三国小 公開授業・教志塾の申込				
参加者	職名	お名前	参加希望日(○印)		
			6/4	6/14	7/12
			6/4	6/14	7/12
			6/4	6/14	7/12
			6/4	6/14	7/12
			6/4	6/14	7/12

【お問合せ先】
大阪市立東三国小学校
(電話) 06-6391-0366
教頭 千葉まで